5 ごみとわたしたち

奈良市のごみの量

奈良市の環境清美工場へ１年間に運び込まれるごみの量

２０１９年度（令和元年度）

約9万トン

9万トンとは？

体育館
（25m×20m×10m）

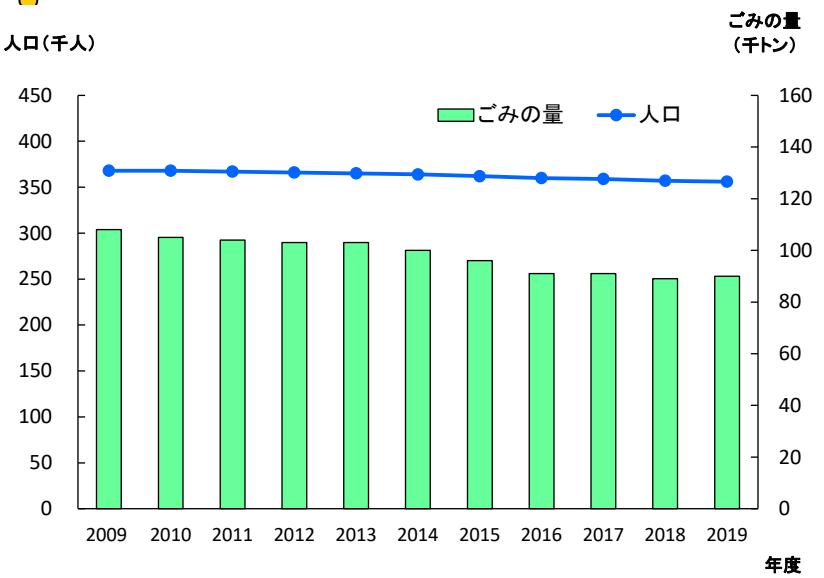
× 90杯分

※（ごみの量 1m³当たり0．2トン換算）

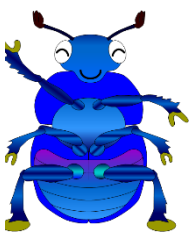
1日に出されるごみの量は約２５０トン

このうち、家庭から出るごみは約60%

ごみの量の変化



人口はあまり変わらないけど、ごみの量は少しずつ減ってるね！



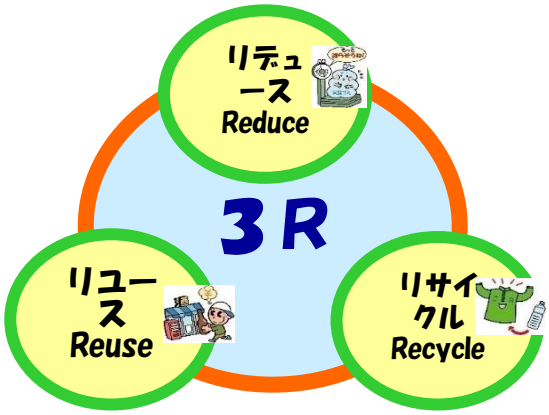
ごみの問題について

家庭から出たごみのうち、「燃やせるごみ」は焼却され、「燃やせないごみ」はうめ立てられ、ペットボトルなどの「資源ごみ」はリサイクルされます。しかし、ごみをうめ立てる場所はだんだん減っており、このままのペースでいくとうめ立てる場所がなくなってしまいます。

また、ごみを燃やす場合も二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因になります。したがって、ごみの量を減らすことが求められています。

ごみを減らすためにわたしたちができること

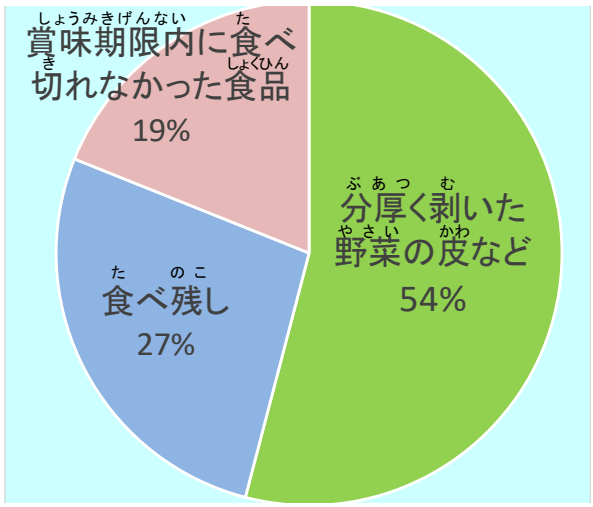
わたしたちがごみを減らすためにできることは、ごみを減らす「リデュース（Ｒｅｄｕｃｅ）」、くり返し使う「リユース（Ｒｅｕｓｅ）」、資源として再生利用する「リサイクル（Ｒｅｃｙｃｌｅ）」という３つの行動が大切です。３つの頭文字が「Ｒ」なので、３Ｒ（スリーアール）と呼ばれます。



３Ｒの中では、ごみを減らす「リデュース」が一番重要であり、食品ロスを減らすために「食べ残しをしない」、「食材は必要なときに必要な分だけ買う」ことなどに取り組みましょう。

「食品ロス」

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられる食品のことです。食品ロスの約半分は家庭から捨てられています。これは毎日一人あたりお茶碗一杯の食品が捨てられていることになります。

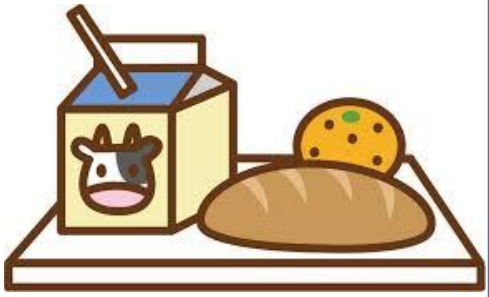


出典：農林水産省「平成２６年度食品ロス統計調査・世帯調査」より

給食でできること

○みなさんは給食を残していませんか？

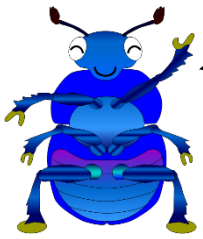
給食を残すと食品ロスになるので、なるべく食べ残しをしないようにしましょう。



○奈良市の小学校、中学校では、給食からでる生ごみの堆肥化にも取り組んでいます。

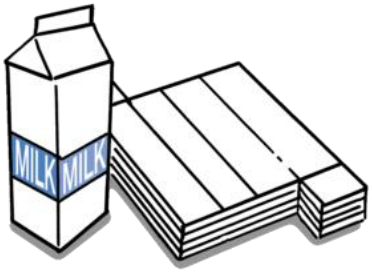
ダンボールコンポスト

生ごみ処理機（平城中学校）



家庭でできること

○飲んだあとの牛乳の紙パックは洗って、切り開いてからまとめてリサイクルしましょう。



○ノートやコピー用紙、お菓子の箱といった雑紙を集めて処分することでリサイクルになります。大きさを揃えて紙ひもなどで十文字にしばって、廃品回収などに出しましょう。

循環型社会へ

これまで、わたしたちは大量にものをつくり、大量に消費し、大量に捨てるという生活をしてきました。しかし、資源には限りがあり、このまま使っていくとなくなってしまい、ごみばかりがたまっていきます。

このような社会を見直し、これからは自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを大切に使い、ごみを最小限に抑える必要があります。そのような社会を「循環型社会」と呼んでいます。

循環型社会をつくるためには、３Ｒを実践していくことが重要になります。奈良市ではガラスびんやペットボトルなどのごみを回収し、再資源化（リサイクル）しています。

環境活動の紹介

もったいない陶器市

もったいない陶器市は、まだまだ使える陶磁器製食器を持ち寄り、欲しい人に持って帰ってもらう市場です。はぐくみセンターなど市内の会場で行っています。

ここでは、みなさんが今まで使ってきたお皿や茶碗などの陶磁器製食器を市場のように並べて、必要としている人に持って帰ってもらいます。

いらなくなった陶磁器製食器は捨てると燃やせないごみになってしまいますが、他のだれかに大事に使ってもらうことでごみを減らすことになります。

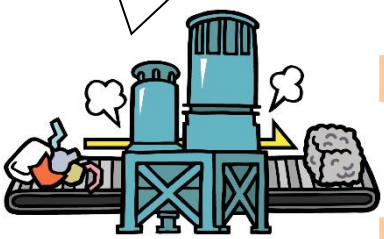
奈良市の再生資源のゆくえ

分別

みんなも回収に参加して、リサイクルしましょう！

- ガラスびん
- ペットボトル
- プラスチック製容器包装
- 空き缶（アルミ缶・スチール缶）
- 飲料用紙パック

圧縮・梱包



→ リサイクル事業者

どんなものにリサイクルされるの？

ガラスびん	無色、茶色びん→ガラスびん その他びん→道路の材料など
ペットボトル	ポリエステル繊維、卵のパックなど
プラスチック製容器包装	パレット、再生樹脂
空き缶（アルミ缶・スチール缶）	アルミ缶→アルミ製品 スチール缶→鉄製品
飲料用紙パック	トイレットペーパーなど